



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2019年9・10月
第330号

病院だより第330号 (2019年9・10月号)
発行者 昭和大学藤が丘病院
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
発行責任者 藤が丘病院長 高橋 寛
編集責任者 広報委員長 今井 敦
〒227-8501 横浜市青葉区藤が丘 1-30
Tel 045-971-1151

藤が丘病院呼吸器外科診療科長就任のご挨拶

藤が丘病院 呼吸器外科 准教授 神尾 義人

9月1日付けで藤が丘病院(以下当院)呼吸器外科診療科長を拝命いたしました。

私は1991年度に当院外科に入学し、1993年より同胸部心臓血管外科の所属となりました。当時、血管外科が専門の堀豪一助教授と、呼吸器外科の鈴木隆講師(現昭和大学病院呼吸器外科特任教授)、北見明彦助手(現北部病院呼吸器センター、呼吸器外科教授・診療科長)に師事し、胸部外科診療を開始しました。2001年度には、同年に開院した昭和大学横浜市北部病院に異動し、中島宏昭教授のもと、門倉光隆助教授(現昭和大学呼吸器外科主任教授、昭和大学横浜市北部病院、院長/呼吸器センター長)とともに、北部病院における呼吸器センター/呼吸器外科立ち上げにあたりました。



2011年2月に当院呼吸器外科スタッフは、大学内における人員配置の再検討により、昭和大学横浜市北部病院呼吸器センター(以後北部病院)に統合異動となりました。この時から当院での呼吸器外科定期手術は行わずに現在に至っております(なお、救命救急センターでの対応で呼吸器外科緊急手術が必要となった場合には、北部病院のスタッフが藤が丘病院へ駆けつけて対応させていただいております)。

その後、私は北部病院内の人事異動で救急業務を担当、2013年10月からの5年半は北部病院救急センターの診療科長として診療業務にあたりました。2019年5月に呼吸器センターに異動、このたび9月に当院に異動となりました。

当院の呼吸器外科は2011年以降定期手術を行っておらず、呼吸器内科をはじめとする各診療科にご迷惑をおかけしている状況であることは心苦しく感じております。一方で、藤が丘病院と北部病院の呼吸器グループとしては大変良好な診療連携を築けております。

北部病院でのセンター制立ち上げの経験を活かし、まずは当院各科に呼吸器外科医不在のストレスを解消することを行いつつ、当院での呼吸器の本格診療/呼吸器外科手術の再開に向けての準備を進めていきたいと考えております。



最新かつ最適の診療を目指して

藤が丘病院 皮膚科

昭和大学藤が丘病院皮膚科は2019年9月現在、6名の常勤医と非常勤医、臨床研修医で診療に当たっております。原則として午前中に外来診療を行い、午後は手術や皮膚生検などの諸検査に充てています。

最近10年間における皮膚疾患治療の進歩には目覚ましいものがあります。代表的な難治性疾患である乾癬を例にとりますと、2010年に抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤の使用が認められたのに始まり、現在は8剤の生物学的製剤が認可されています。さらに2014年には専用の配合外用薬、2017年には新しい機序の内服薬も加わりました。こうした薬剤の登場により、爪病変など従来は困難であった症状の軽快が可能になっています。他にも既存治療では効果が不十分な慢性特発性蕁麻疹に対して2017年にヒト化抗ヒトIgEモノクローナル抗体製剤が認可され、やはり難治性疾患である掌蹠膿疱症(しょうせきのうほうしょう)やアトピー性皮膚炎に対して2018年に、化膿性汗腺炎には2019年に生物学的製剤の使用が認められました。当科ではこうした治療を取り入れることで、従来の方では軽快が難しかった症例に対応しております。

入院に関しては、出来るだけ短い期間で退院していただける治療を心がけています。入院患者数の多い蜂窩織炎、帯状疱疹の当科での平均在院日数はそれぞれ9.03日、7.3日(2018年)で、全国平均の11.73日、8.95日より短くなっています。(詳細は当院のクリニカルインディケーター: http://www.showa-u.ac.jp/SUHF/guide/qi/dpc_data/2018/template.html#qi02をご参照ください)また、Stevens-Johnson症候群などの重症型薬疹や天疱瘡、類天疱瘡といった自己免疫性水疱症のうち、ステロイド全身投与に反応が悪い難治例に対しては、免疫グロブリン製剤投与や血漿交換療法を併用することで出来るだけ早期の軽快を計っております。

上述の治療に加えて、当科ではアレルギー性皮膚疾患の原因物質同定にも力を入れています。設備の関係で光線過敏症に関する検査は行えませんが、アレルギー性接触皮膚炎や金属アレルギー関連疾患のパッチテスト、



パッチテストの準備

接触蕁麻疹へのプリックテストが施行可能です。パッチテストではより精度の高い検索を行うためにベリリウム(Be)、ニオブ(Nb)、ロジウム(Rh)、ルテニウム(Ru)といった金属、保存料の安息香酸ナトリウム等の試薬を追加いたしました。



当科では週1回全員で臨床写真、病理組織所見をチェックすることで、一人一人の患者さんに対して最適の診療が提供できるように努めております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

入職後半年のふりかえりと今後の展望

藤が丘病院 臨床研修薬剤師 村岡 健太

研修が始まり半年が経ちました。1病棟目の研修が終わったところですが、社会人として主に「責任」と「時間管理」の2点で学生時代の実習との違いを痛感しながら業務にあたっています。

業務上様々な場面で印を押しますが、処方内容や数を確認し、自らが押印すると次のステップに進んでしまうため、「〇〇だからきっと大丈夫」という思いは常に排除して気持ちを切り替えてその場面に責任を持って向き合うことを意識しながら業務にあたっています。そして、患者さんの思いに耳を傾ける姿勢や、様々な点を調べながら業務にあたることに加えて、時間管理や優先順位を常に付けて「待っている患者さんがいる」ことを意識するように心がけています。その業務の裏にいる患者さんに思いを馳せ、スピード感を持った対応ができるように知識・技能を習得していきたいと考えています。

まだまだ一人前になるまでの道程は長いですが、日々患者さんや一つ一つの業務と向き合いながら努力しています。他職種の方々に頼りにされる薬剤師となるよう、今後も研鑽を積んでまいります。

半年間の心境と今後への抱負

藤が丘病院救命救急センター 看護師 石井 菜穂

新人看護職員として藤が丘病院に入職し、早いもので半年が経ちました。入職時は、期待と同じくらい不安な気持ちもありましたが、実施できる看護技術も増えていくと同時に、やりがいを感じることも多くなりました。その反面、看護師として自分の行動に対する責任の重さや、知識・技術面での課題も明らかに

なり、依然として不安な気持ちは拭えません。そのような時に、丁寧に指導して下さる先輩や、励まし合い切磋琢磨できる同期、心配し気にかけてくれる家族の支えがあるので、今まで頑張ることができているのだと実感しています。そして、患者さんやご家族の笑顔が見られると、看護師という職業に対して誇りを感じるとともに、また笑顔が見られるように頑張ろうという励みにもなっています。

今後も、患者さんとの関りの中で多くの経験を積み、周囲の人から様々なことを吸収し、看護師として・社会人として成長できるように、感謝と尊敬、学び続ける気持ちを忘れずに、努力していきたいと思っています。

入職後半年を振り返って

藤が丘リハビリテーション病院 リハビリテーション 言語聴覚士 野間 鞠依

入職してからあっという間に半年が経過し、月日の経つ早さに驚いています。4月から言語聴覚士として藤が丘リハビリテーション病院で働き始め、先輩方の指導の下、学ぶことが多く、充実した日々を送ることができています。この半年を振り返ると、訓練を進めていく中で、自分の未熟さに嫌になることや、机上の勉強とは異なる場面もあり、患者さん一人一人と向き合うことの難しさを痛感しています。しかし、先輩方から業務や技術を教えて頂き、サポートして頂きながら働くことができています。また、患者さんや他職種の方からも学ばせて頂くことが多くあり、チーム医療の大切さを感じています。まだ、未熟で至らない点も多くありますが、少しでも早く、患者さん一人一人に寄り添い、頼りにされるような言語聴覚士を目指し日々研鑽を積み、多くの知識や技術を吸収できるように励んでいきたいと思っています。

入職後半年の臨床検査技師の現状

藤が丘病院 臨床病理検査室 血液センター 川田 智也

私は藤が丘病院臨床病理検査室の血液センターに所属する臨床検査技師です。10月で入職して半年が経ちました。

現在は血液センターでの業務に加えて外来採血の研修をしており、新しいことを覚えることがとても大変ですがやりがいのある日々を送っています。血液センターでは輸血や移植に関する業務を行っており、輸血分野においては正確かつ迅速に結果を出さなければ患者さんの生命に関わるので責任感を持ち業務を行っています。移植分野はまだあまり携わることができていませんが、早く研修して携わることができるようになりたいです。血液センターでは検体を検査する業務が中心で実際に患者さんの対応をすることが少なかったため外来採血の研修ではとても緊張しましたが、先輩方の教えもあり研修を進めることができています。入職半年が過ぎて不安なことは多いですがこれからも勉強を重ね立派な臨床検査技師になりたいと思います。

入職半年が経って

藤が丘病院医療課 池松 彩花

入職後、医療課文書係に配属となって約半年が過ぎました。総合サポートセンターでの研修を経て5月から文書係での業務に携わっていますが、振り返ってみると業務の内容や新しい環境に慣れることに必死で、あっという間に過ぎてしまったように感じます。

現在は、患者様からお預かりした生命保険の書類の下書きや、完成した書類の確認などを医師事務作業補助者として行っています。配属された当初は書類の種類も多く、日々の業務をこなすことで精一杯でした。学校で学んだことよりも深い知識が求められ戸惑うこともありましたが、先輩方に優しくご指導いただき、徐々に自らの判断で行動できるようになってきたのではないかと思います。

これから更に業務の内容が濃くなり責任が重くなっていきますが、今までに身に着けた知識と入職してから学んだことを生かし、スタッフの一員として信頼していただけるよう一生懸命努力してまいります。よろしくお願ひ致します。

藤が丘病院

がん患者・家族サロンを開催しました

2019年8月31日(土)に藤が丘病院において「藤が丘病院がん患者・家族サロン」を開催しました。このがん患者・家族サロンはがん患者さんやご家族同士が、同じ立場で自らの経験や日頃のお話をする事で、不安感や孤独感を和らげることを目的とした患者さん・ご家族の交流の場です。

今回は、真言宗豊山派金剛院の野々部利弘住職による「気の健康法」というテーマにて講演を行い、実際に様々な健康法を体験していただきました。参加された方々からは「また参加したい」、「とても有意義な時間だった」などの感想をいただきました。



「藤が丘がん患者・家族サロン」は、今後も様々なミニレクチャーなどを盛り込み開催いたします。開催日時につきましては院内ポスターやホームページにてご案内いたしますので、お気軽にご参加ください。

(藤が丘病院管理課 小泉 春樹)

ビッグレスキューかながわに参加しました。

2019年8月31日(土)、神奈川県主催の「ビッグレスキューかながわ(令和元年度神奈川県・伊勢原市合同総合防災訓練)」が開催され、藤が丘病院のDMATも参加しました。伊勢原市の総合運動公園をはじめとする各地で訓練が実施され、消防や警察、自衛隊、在日米軍など100を超える機関が災害発生時の初動対応、救助や救護活動などの訓練に取り組みました。その中で、当院は災害拠点病院である東海大学医学部付属病院の支援に入り、DMAT活動拠点本部の立ち上げ、近隣病院の被災状況確認や患者搬送手段の確保などを行いました。



藤が丘病院が被災した場合においても、DMAT活動拠点本部を立ち上げる必要があるため、本訓練から学ぶことが多くあり大変有意義な訓練となりました。

(藤が丘病院管理課 小泉 春樹)

大規模地震時医療活動訓練に参加しました

2019年9月7日(土)、内閣府が主催する「令和元年度大規模地震時医療活動訓練」に藤が丘病院のDMAT9名が参加しました。同訓練は、都心南部直下地震を想定し、来るべき災害に対する医療活動の対応能力向上等のために実施されています。

当日、藤が丘病院は横浜市参集拠点として全国各地から来るDMATの参集場所となり、支援を必要とする病院へDMATを送り込む役割を果たしました。その他にも、当院が被災を受けた際の病院の役割等を机上で訓練しました。



藤が丘病院は、神奈川県に 33 箇所ある災害拠点病院の 1 つとして、被災時には多くの重篤傷病者を受入れ、治療・搬送等に貢献しなければなりません。そのため、今回の訓練は来るべき災害に対応するために大きく役立つ機会となりました。

(藤が丘病院管理課 小泉 春樹)

結果から 11 月 19 日に開催される「横浜市消防操法技術訓練会」への参加権を獲得致しました。市の訓練会では青葉区の代表として精一杯力を尽くしてまいります。

(藤が丘病院管理課 大内 裕愉)

自衛消防隊青葉区訓練会で最優秀賞受賞

2019 年 9 月 9 日(月)、救急の日に台風一過の晴天の下開催された「青葉区消防操法技術訓練会」に藤が丘病院から 5 名の隊員が屋内消火栓操法 1 の部に出場致しました。

昨年度最優秀賞の実績を持つ当院は、メンバーを一新して臨みましたが、プレッシャーを感じさせない堂々とした所作で 2 連覇を果たしました。隊員は看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師と多職種で構成され、約 1 ヶ月間訓練に励みました。屋内消火栓を使用し、正確かつ迅速な放水と消火を行うには隊員同士の息の合った連携が不可欠となります。昭和大学のチーム医療の連携が十分に発揮されたことが 2 年連続最優秀賞をいただく結果に繋がったのだと思います。この



藤が丘病院緩和ケア研修会が開催されました

2019 年 9 月 15 日(日)に藤が丘病院 B 棟 6 階講堂にて「藤が丘病院緩和ケア研修会」が開催されました。

緩和ケア研修会はがん等の診療に携わる全ての医療従事者が基本的な緩和ケアを理解し、知識や技術、態度を習得することを目的としています。企画責任者の中山博文講師(藤が丘病院腫瘍内科・緩和医療科)、佐々木康講師(藤が丘病院産婦人科)が中心となり、昭和大学病院緩和医療科樋口比登実教授、岡本健一郎教授をはじめとする昭和大学関連の方々にもファシリテーターとしてご協力をいただき滞りなく終了いたしました。



今回の研修会は外部からの参加者を含む医師 12 名、コメディカル 8 名に参加頂き、職種・病院の垣根を越えて積極的に意見交換がなされました。参加者からは様々な職種の方の意見を聞くことができ勉強になったとの感想があり有意義な研修となりました。

(藤が丘病院管理課 小泉 春樹)

診療統計 2019年8月・9月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2019年8月	2019年9月	2019年8月	2019年9月
外来患者数	29,553 人 (1,136.7 人)	27,301 人 (1,187.0 人)	4,712 人 (181.2 人)	4,434 人 (192.8 人)
入院患者数	17,317 人 (558.6 人)	15,855 人 (528.5 人)	5,803 人 (187.2 人)	5,234 人 (174.5 人)
紹介率	78.3%	80.7%	71.8%	72.4%
逆紹介率	70.1%	65.3%	91.0%	91.6%

《広報委員会委員》

今井 敦	原田 浩史	佐々木 春明	市川 度	小岩 文彦	川手 信行
泉 紀子	角田 博子	高木 睦子	鈴木 美穂	藤宮 龍祥	東 哲士人
岡部 圭吾	斉藤 あずさ	和田 洋一	(順不同)		